

PHYSOR2026 参加報告

名古屋大学 山本章夫研究室
修士 1 年 永田琴乃

1. 学会概要

開催期間：2026 年 4 月 19 日～23 日

開催場所：イタリア ピエモンテ州トリノ

発表時間：20 分(内 5 分質疑応答)

2. 口頭発表・質疑応答

自身の発表では、「Quantification and Reduction of Cross-Section-Induced Uncertainty in a Micro Reactor Using Critical Experiments」という題目で口頭発表と質疑応答を行いました。炉定数調整法をマイクロ炉に適応することにより、核データに起因する不確かさを低減するというという内容で、2026 年度日本原子力学会春の年会でも報告した内容であり、その概要は以下の通りです。

本研究で着目したマイクロ炉では、その小型さを実現するために既存の軽水炉とは異なるコンセプトで設計がなされるため、これまでの炉心データが活用できず、不確かさが増大するという課題があります。そこで、過去の積分実験データを用いて、核データを尤もらしいデータに調整し、その不確かさを低減する炉定数調整法をマイクロ炉の解析に用いることで、マイクロ炉の炉心解析に伴う核データ起因不確かさを低減しました。

当日は、極度の緊張状態であったことから、うまく発表することができませんでした。スライドの写真を撮っていただけることも多く、興味を示して下さる方が多くいらっしゃったことに喜びを感じました。その一方で、質疑応答の際には、うまく質問を聞き取ることができず、適切に回答できなかった場面もあり、英語力に課題が残る結果となりました。

また、自身の発表以外では、日本国内ではあまり見ることのないマイクロ炉に関する発表が多くあることに驚きを感じました。今回発表したセッションもマイクロ炉に限定したセッションであり、自身と同じような研究を行っている方々が世界に目を向けると多くいるのだということを強く感じました。研究の参考となる発表もとても多くあり、帰国後も自



画像 1 発表会場での様子

身の研究に関連する発表のフルペーパーを読んで、学びを深めていこうと思っております。

3. その他

学会期間中には、レセプションやバンケット、コーヒブレイクなど初めてお会いした研究者の方々と談笑するような機会が多くありました。英語での会話はうまく伝わらず、苦い思いをすることもありましたが、どの方もこちらの拙い英語に対して丁寧に耳を傾け、話そうとして頂き、とても感謝しております。

また、ヨーロッパへ行くのが初めてであったため、街を歩くだけでもその街並みに感動いたしました。また、学会最終日のクロージングの後には、トリノ王宮や2018年まで製造されていた、イタリアの2セント硬貨にも描かれているモーレ・アントネリアーナを訪れ、歴史あるイタリアの建造物や美術品を楽しむことができました(画像2、3)。近くには、有名なオペラハウスであるレージョ劇場があり、一度行ってみたいと思っていた劇場を間近で見ることができました。機会があれば、本場でのオペラ観劇もしてみたいと思います。

最後になりますが、本会議参加にあたり旅費の一部を日本原子力学会炉物理部会よりご援助を賜りました。炉物理部会の皆様に心より感謝申し上げます。また日頃より、ご指導いただいております先生方にも深く御礼申し上げます。



画像2 モーレ・アントネリアーナ



画像3 イタリアの2セント硬貨